

会長 橋本正巳  
新潟県山岳協会  
上越市南城町2-3-37  
TEL 025-524-7215

事務局 諏訪恵一  
長岡市高畑町610-10  
TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集  
委員会代表 浅野亘寛  
TEL 0258-52-3998

# 新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

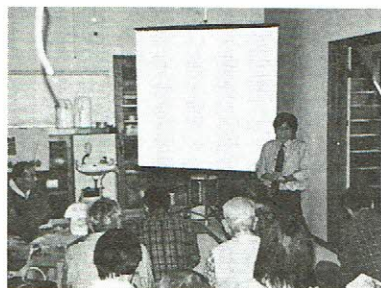
## 第43回自然保護研修会に参加して

工友会 伊藤 直

18年度秋の第43回自然保護研修会が10月21日(土)〜22日(日)の日程で会場を湯沢町土樽 高波ヒュッテ、大源太山に於いて開催された。

21日は高波ヒュッテで受付後、37名の参加となり、協会自然保護委員会の高橋委員の進行で、15:00開始となった。

初めに自然保護委員会本間委員長のあいさつがあり、本年春の研修会以降の飯豊山登山道整備活動等の報告があった。続く新潟県山岳協会橋本会長のあいさつでは、本委員会元委員長長石田国夫さんが9月19日に逝去されたこと、兵庫国体



講演中の横山氏

で本県山岳競技で好成績を収めたことの報告等がなされた。次に講演に入り、今回の講師、日本自然保護協会常勤理事 横山隆一氏が登壇された。演題は「会津地域の森をめぐる自然保護の取り組み」である。講演はプレゼンテーションを使用しながら行われた。

めにも固まった大きな面積の森をそのまま保護していく必要があり、林野当局に要望している。会津地域には、飯豊山地、吾妻山地、御神楽岳、浅草岳、会津朝日、会津駒、尾瀬、帝釈山、田代山などに囲まれる区域に自然性の高い森林が大きな固まりとして広範囲に分布している。この領域を当局は会津森林計画区とし、委員会を設け、いかに保全していくか調査・検討を行っている。(横山講師は日本自然保護協会からこの委員会のメンバーとして参画されている。)

このためにも実施した林相調査や自然度調査により、この地域の森の自然度の高さが浮き彫りになってきている。また、その自然度の高さ、豊かさは希少猛禽類である、イヌワシとクマタカの生息数によっても言える。ただし、ここ20年ほどでこれら猛禽類の繁殖成功率が著しく低下してきていることが危惧される。ダイオキシン等を含む内分分泌攪乱物質が彼らの体内から検出され、その影響が考えられる。森を保全する仕組みとして保護林制度、緑の回廊、保安林制度があり、これらを組み合わせて森林保護区を作っていくのだという。保護林としては「森林生態系保護地域」、「森林生物遺産資源保存林」、「特定動物生息地保護林」等がある。緑の回廊とは、分断された保護林や小規模の天然林や人工林、裸地等を相互に連結(ネットワーク化)して連続性を向上させ、野生動物の移動経路を確保することにより広範囲で効果的な森林生態系を保全しようというものである。

講演内容 日本の山の中身・質が、この50〜60年で大分変わってしまった。杉・カラマツ等の植林や消耗型の地域振興策等により、天然の森の面積が減少した。森の面積の減少は森の生物の種類数を加速的に減少させてしまう。既に絶滅した種があり絶滅危惧種も多数ある。絶滅危惧種は回復可能なものであり、早く手を打たなければならぬ。このように、山ひいては森という環境は、生命を支え、生物の多様性を維持する根元的な力を持つものであるから、破壊から守り、改変されたものは復元していかなければならない。このた

廊下として繋いでいく必要がある。小規模な国有林や、民有林でも所有者の協力を得て、裸地化を抑制、生産性の低い杉の植林等の間伐・伐採、或いは人工の手を加えずに自然の森に復元していくのを待つというような種々の技術・方法で復元、維持を計り、回廊を形成・復活させていく。結果をモニタリングし活動に反映させていく。東北地方や北海道に大規模なものが設定されている。

会津にもその緑の回廊を作ろうと活動しているところがある。現在、会津10万ha大規模森林保護区指定プランをすすめており、実現すれば全国

最大となる。今後会津地区では次のテーマとして、保護地域を取り巻く自然林（緑の回廊）のモニタリングと修復・隣接している新潟県内域、蔵王地域、阿武隈地域とも接続したより広いネットワークの構築・会津地域の森林10万haを管理維持することを通じ、持続可能な社会作りに取り組んでいきたい。

自然も社会も持続性をもてなければいつか破綻する。現在、「三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画」（通称「赤谷プロジェクト」）というものに、地元住民組織協議会、林野局、日本自然協会の三者共同で取り組んでいる。このプロジェクトの目指すものは、生物多様性の復元を行うこと、持続的な地域づくりを行うこと、そしてこの目標を実現するために関係する地域社会・政府機関・NGOの複数の組織が主体的に協議協働し地域環境管理のための連携と合意形成を達成していく手法等、21世紀型の自然保護活動の初のモデルプロジェクトとなることだという。具体的な成果として、この地区に建設計画のあった大規模リゾートスキー場とダム計画の中止

や、イヌワシの繁殖率の回復傾向が見られるようになったことなどが挙げられる。今後このようなスタイルのプロジェクトをいくつかがやっていきたい。「新潟でもやってみませんか」と呼びかけ、講演を終えられた。

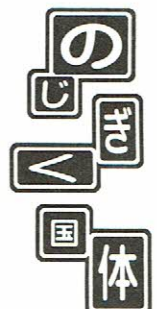
質疑・応答の中では次のような内容が講師から話された。緑の回廊を復元するためには、植林はせずに自然の回復に委せる。緑の回廊としては20〜30年あれば一応機能できるようにする。

今年、クマやサルが里に異常なほど出てきているが、これは自然が攪乱され、生態系がメチャメチャになっているせいもある。これは是正されなければならない。具体的には、動物が里に出てくる通路になっている林道を埋め戻すことなどによって、改変された森の質を元に戻していく必要がある。放置されたスキー場の復元などのために国有林から幼木を採取してくるときは、森林管理署の許可を得てください。かつての営林局（署）は、森林管理局（署）と名称が変わり、営利追求から森林

管理という公益機能を果たすことをめざすように変化してきている。自然保護協会とかつては敵対関係であったが現在は協働できるようになってきている。

講演終了後、片桐理事長の声掛けで受講者の一部と横山先生は、近くの「岩の湯」で入浴し、恒例の懇親会でも講師先生を囲んで多いに盛り上がった。先生のお母様は長岡出身とのこと、先生の新潟への思い入れの深いことが推察された。

翌日22日は晴れ、7時前にヒュッテを出発。当日参加を含め27名が7：15登山開始。美しい紅葉の山を満喫しつつ急坂の連続を登る。大源太山頂上着9：50。国境稜線上に厚い雲が懸かっていたが越後側は好天。逆光で七ツ小屋山へ至る尾根が暗緑色に光っている。巻機山や万太郎山はよく見えた。山頂にて十時半頃解散した。今回の研修会では、座学でいくつかが新しい視点や知識・情報を教授頂き、また、秋の上越の山を久しぶりに楽しむことができ有意義な二日間でした。



成年男女、少年女子  
そろって入賞

クライミング委員長 稲田 春男

10月1日から3日にかけて兵庫県神戸市で、のじぎく国体山岳競技が開催され縦走は、摩耶山特設縦走コース、クライミングは神戸ポートアイランドホールに仮設のウォールが建てられ、熱い戦いが繰りひろげられた。

今年で3度目の国体参加ですが、年々競技者と大会のレベルが上がってきていて、参加することの喜びを感じました。

また、天皇陛下ならびに殿下がクライミング会場にお越しになり、少年男子のクライミングを、ご観戦になられた。成績については周知のとおりであるが紹介したい。

成年男子 クライミング 7位  
成年女子 クライミング 7位  
少年女子 縦走 6位

◇大会後の選手のコメントをもらったので紹介したい。

☆樋口大棋選手  
少年男子で参加した時とレベルの違いがはっきりしたので、スキーマの練習と縦走の練習を平行し、個人で上位入賞を目指したいと思います。

【成年女子】  
☆春日未奈選手  
7位に入賞できて良かったです。子連れでの国体参加も沢山の方々のご協力があったからだと思えます。来年も頑張ります。

☆片桐麻由子選手  
初めての国体で緊張しましたが、予選、決勝とも良いルートで楽しめました。

☆中山就実選手  
万全の状態で大大会に臨むことができませんでしたが、国体に参加できたことが本当に良い経験となり、嬉し

☆岩橋由洋選手  
去年は決勝に行けなかつ

く思います。  
【少年女子】  
☆小林祐佳選手  
全国の強豪と一緒に競い合うことができ、貴重な経験ができました。そして入賞することができて良かったです。応援して頂いた方々に感謝致します。

☆滝澤三咲子選手  
初めての国体に出場し、入賞することができてとても良い経験になりました。レースの最中はとてもつらかったですが、気持ちを切らさず自分のペースで登りかけたので良かったです。

☆塚本菜々香選手  
初めて国体に出られてとても良い経験になりました。クライミングで入賞できなかったものの、この国体で過した時間は本当に楽しく良い思い出になりました。

これからも、日々の練習を怠らず頑張つてクライミングを続けようと思います。

◇稲田春男  
最後になりますが、選手をサポートして頂いた方々、応援して頂いた方々に感謝、御礼を申しあげます。ありがとうございました。

### コーチの立場から見た チームの結果分析と課題

【成年男子】① 森 庄一

縦走競技は樋口選手の44位と予想外の順位であったことと平嶋選手はクライミング選手のため指定時間内の完走目的は達成したものの85位と遅れ、チーム順位33位となった。ふるさと登録の樋口選手は大学でクロカンスキーの一環でトレーニングはしたものの大会での負荷重量17kgが影響して1桁順位に入れなかった。

36位、今年の結果が33位と振るわなかったが、来年の秋田国体での種目がなくなるにしても、国体は参加するだけでなく、好成績を目指すべきであり、今年も『ふるさと登録してくれた樋口選手』に来年の参加も要請し、彼に最後の力を振り絞ってもらいたいと思う。

クライミング競技の岩橋、平嶋選手は9月27、3日のジャカンカップ湯原温泉大会での経験が好結果を生んで持てる実力を発揮し7位に入賞できた。しかし上位チームの選手は国内でも一桁ランクの選手であり練習環境の悪い新潟県においては3位以上には到達できない。

クライミング競技について、予選を6位で通過し、決勝で7位と順位をひとつ落とし、その後の3年後にも十分戦える力量を備えた選手である。来年の秋田国体、2年後の大会分国体、そして3年後の新潟国体でも新潟県選手として『平嶋選手』、『岩橋選手』には活躍を期待したい。そのため、今からも出場を要請し、各種全国大会に出場経験を重ねてもらい、クライミング技術の研鑽をしてもらいたい。そしてそうするならば、可能な限り応分の資金援助をした

◇稲田春男  
最後になりますが、選手をサポートして頂いた方々、応援して頂いた方々に感謝、御礼を申しあげます。ありがとうございました。

【成年男子】② 片桐一夫  
縦走競技の結果は、昨年の

して活躍が困難視される部分も考えられるので、新潟県体育協会という組織でサポートを必要とする。兩名とも、必要な人材である。

【成年女子】① 春日俊信

新潟県チームはクライミング7位であった。本県のオンサイトグレードは5・11d～5・12aであるが、兩名とも完登できなかったことから、予選から5・12b以上の高難度であったと思われる。

クライミングは高難度になるほどボルダー能力が必要になるが、当県が予選6位から決勝7位と順位を落としていくことから、ボルダー能力が他県と比べ足りなかったと推測される。今後は持久力に加え、ボルダー能力の強化も必要と感じた。

クライミングを主体としたチーム編成のため、平均した技量を有していることから、予選を通過することに期待した。6位での通過、決勝での7位入賞は評価できるものがある。

縦走の15位は、クライミング競技が決勝に進むことが出来たため、片桐選手の体調温存を考えると、棄権することなく時間オーバーであっても完走したことを良しとしたい。しかし、中山選手に申し訳なかった。

成年女子は、ブロック予選を勝ち抜かなければならないため、他県の分析は難しいが、クライミングを主体としたチームを考えると、クライミング競技で上位入賞している者、台頭してきている少年女子のいる県をマークすべきであろう。

これらの者が参加する、競技大会により多く参加し、上位入賞者の技量を見ることが自らのレベルアップに繋がるものと思う。

【成年女子】② 遠藤家之進正和

記事監修  
64 国体強化総括責任者  
渡 邊 正 之

産業業務発展への功績・山と自然保護に日々精進

### 黄綬褒章に輝く

## 宝井俊夫さん 塩沢山岳会



授章された  
宝井さん

### 藍綬褒章に輝く

## 藤井 信さん・長岡ハイキング



指導中の  
藤井さん

### 自然公園功労者・環境大臣表彰に輝く

## 加藤明文さん むささび会



指導中の  
加藤さん

長年その地域の産業業務発展への功績、研鑽された、宝井俊夫さんとその地域を自然保護の思想に基づき、その普及への尽力。登山者への献身的な安全指導に貢献された、

藍綬褒章の藤井さん。自然公園功労者・環境大臣表彰の加藤さん。その自然公園指導員としての功績が認められ、今秋の発表、授章となった。

# 第9回 新潟カップ開催される

クライミング委員長 稲田春男

妙高市の国際アウトドア専門学校のクライミングウオー

ルに於いて県内での普及とレベルアップを目的として第9回新潟カップが開催された。10月22日国際アウトドア専門学校で開催された今回の大会には、長野県・福井県からの参加もあり、48名の参加者によって競技が行われた。時節柄、学校行事、文化祭などで参加出来なかった選手もいたが、小・中・高校生の参加者が年々着実に増えてきているのは、熱心な指導者の方々の賜物と感謝したい。

オープン部の平嶋選手はホルダーの全国大会では常に上位に名を連ねている選手だが、リードでも最近メキメキ力をつけ、今回は見事優勝。2位の春日選手は手首の故障を押し越して出場。3位の田中選手は新潟県では唯一のワイルドカップ出場者で、第2回新潟カップの優勝者でもある。

ミドル女子の優勝者吉田選手は、今年の長野県の国体選手。五十嵐選手は、練習をしていなかったにも関わらず3位は立派。

男子では渡辺、山川選手がゆっくりではあるが、着実に力をつけてきている。

キッズは千田、太田選手が2本とも安定した登りで完登。また、まだ小学校にも行っていない田中修太君の登りには感動した。

シニアの部、今年は福井県勢に優勝をさらわれたが水野さん夫婦も福井県の国体選手、睦子選手は今年の北信越大会に出場。

田中、松本選手のように、数年振りに大会に参加された方もいます、成績は(?)にして、この大会を楽しんでもらいたいと思います。最後に

なりませんが、ルートは専門学校講師の丸木氏を中心に設定しました。ルートセット、ピレー、審判、記録、進行とご

協力を頂いた役員の皆様、この場をかりて厚く感謝申し

あげます。ありがとうございます。



### 新潟カップクライミングコンペ成績

【男子】

- ▽キッズ ①千田雄生(糸魚川東小) ②南雲凌(十日町北辰小) ③頭師雅人(上越飯小)

- ▽ミドル ①山川康平(上教大附中) ②渡辺純(横越中)

- ③小沼拓也(大町高)
- ▽シニア ①水野直輝(福井アスカ) ②古沢勝美(高田ハイキング) ③西川敏正(新潟山岳会)

- ▽オーブ①平嶋元(025オ  
ーツファイブ)②春日俊信  
(025オーツファイブ)③田  
中勉(妙高市)
- ▽女子
- ▽キッズ ①太田吹雪(新津  
第一小)②千田清楓(糸魚  
川東小)③田中千華(妙高  
斐太小)
- ▽ミドル ①吉田佳奈子(グ  
ループ・ド・モレーヌ)②  
滝沢倫未(新潟市)③五十  
嵐妹子(柿崎中)
- ▽シニア ①水野睦子(福井  
アスカ)②辻めぐみ(新潟  
市)③長谷川智恵子(ウエ  
スト)

# 『やぶ道⑦』ハナ薬

杉本 敏



過疎化の進む市町村は、自然を売りものにして誘客に努める。自然をそのまま売り出せば資本はいらないし、知識は育った年齢分豊富に蓄えられていた。街の人達に、これがオタマジャクシで、これはトンボのヤゴ、などと教える。また来た時にカブトムシ用意しておくから、なんて言われたらたまらない。宿で登山客も結構大事に扱われているようにおもふ。春の山登りに来たのに、夏もいいで、それから紅葉はたまらなく綺麗だ。昔のうちのばっちゃんみたいがいいや。なんて言われたら

どうする。現金収入を得るために作り出された演技ではない。人柄がお客を惹きつけ、相互に会話がはずむことで、更に研鑽を重ねて来訪者を楽しませるように努める。会話の中にそれとなく、今と次の内容が織り込まれて夢をつなげるようになっていく。写真1枚ではダメなのだ。連続する映像を提供しないと飽きられてしまう。「気を付けて行てらっしゃい」ではなく「また来いよ」がいい。おお、おれを親父が待っている。なんと都合つけてまた来るか。次、出掛けるためには今日、うちのばあちゃんに土産持つて帰らなければ。まるく治めるには、ハ・ナ・グ・ス・リ。

●お詫びと訂正  
10月号の「やぶ道」は「カブ道」の誤植でした。お詫びと訂正申し上げます。

## 越後の山に見られる 変種植物

むささび会 加藤 明文

- ◆ドウダンツツジ属
- ⑧ ベニサラサドウダン



母種サラサドウダン  
ミズガキ山 5/28



ベニサラサドウダン  
仙の倉山 7/1

新潟～群馬～栃木の県境だけに産する。したがって県内では谷川連峰に産し、特に仙の倉山の稜線に多い。母種は県内にも見られるサラサドウダンで種名 Campanalatus はたくさんの鐘の意で鐘形の花が多くつき、花の形はまったく同じであるが、母種のスジ色やボカン入りに対して濃紅色で美しくやや大きいかわりに花数も少なく、木そのものも小さい。

### 海外・国内旅行、主催・手配



### ユニオン航空サービス

国内交通大臣登録旅行業第553号・IATA代理店 (社) 日本旅行業協会会員  
本社：新潟県長岡市幸町1丁目3番5号

<http://www.uks.co.jp>

- 長岡営業所 〒940-0284 長岡市幸町1丁目3番5号 一般旅行業取扱主任者 森 剛樹 ☎ (0258)33-7123
- 新潟営業所 〒950-0916 新潟市米山3丁目2番11号 一般旅行業取扱主任者 中島 豊 ☎ (025)246-2266

12月31日出発

新潟空港発チャーター便  
のんびり過ごそう

## 台湾のお正月

期日 12月31日(晦日)～1月3日 4日間  
費用 85,800円～148,800円

※詳しくはパンフレットをご請求下さい。

お問い合わせは (株)ユニオン航空サービス  
本社営業所 0258-33-7123  
新潟営業所 025-246-2266

# お知らせ

平成18年度

## 山岳レスキュー講習会 積雪期 開催要項

主催・社団法人日本山岳協会  
主管・鳥取県山岳協会

### 1 趣旨

遭難事故現場で必要な登山者の救助技術の習得・研鑽を目的とする。

### 2 期日

平成19年1月27日(土)  
28日(日)

### 3 会場

宿泊：鳥取県西伯郡  
大山町大山36-3  
ホテル大山  
〒689-1331

### 4 応募資格及び定員

〒0859-52-2260

#### (1) 応募資格

① 日本山岳協会所属団体会員及び一般

② 一般登山技術又は雪上技術をお持ちの方

③ 山岳共済保険又は山岳保険の加入者

④ 募集定員 35名(経験及び希望に応じてクラス分け致します)

⑤ 基礎技術コース(雪質クラス)

観察、ビーコン基本操作、雪崩の予防、シェルター)

② 救助技術コース(事故発生から搬出までのレスキュー技術)

尚、救助技術コースは基礎技術習得済みの方を対象とします。

#### ◇受講費

一般 15,000円  
学生 10,000円

(講習会10日前まで)

◇申込先 郵便振込み

### 5 講師

日本山岳協会遭難対策委員会常任委員

### 6 参加申し込み

別紙申込書により、郵送またはFAXにて申込みと。

#### ◇申込先

FAX 03-3481-2395

〒150-8056

東京都渋谷区神南

1-1-1

岸記念体育館

日本山岳協会事務局(内)遭難対策委員会

参加希望者は添付書類、必要装備取り揃えも有る為、所属団体へ問合せ団体を通じてお申込み下さい。

### 7 申し込み締切り

平成19年1月15日(月)

必着の事。

# 編集こうき

▲高い山の頂から谷筋への雪が目立つようになった。里の紅葉も散りはじめ、冬囲いや家々の冬支度も真つ盛りだ。二人暮らしの我が家でも玄米ごとのコシヒカリが来たし、先日からは越冬用の白菜だの里芋だのと狭い家なのに、今日はまた「漬け菜」用のタイ菜がきた。まだ大根がくるそう、家内もなかなか忙しい。タイ菜を持って来る私の友人は男のくせに、漬物が得意で塩加減がどうのとうるさい。

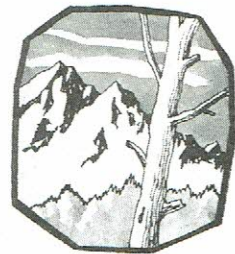
▲近くの高校前の歩道は街路樹のイチョウの落葉が黄金を敷き詰めたようだ。軍手をはめたバアチャンが3人ほど銀杏ひろいに余念がない。独特の匂いのなかなかに袋がいっぱいになる。

▲そばの刈谷田川には、カモなどの水鳥が到来して中洲のあたりが特に騒々しい。

▲大きな桜のある橋のためには、クルミを大事そうにくわえたカラスが、なかなか車が割ってくれないのか、置き場所の選定に悩んでいる。都会では好かれないカラスだが小首をかしげて考える仕草がなんとも可愛らしい。

(会報 浅野)

## 山への想い 過酷な厳冬期の山に挑む 県内岳人の冬山装備をアシスト



### 登山・アウトドアの専門店



新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025) 243-6330(代)

### 登山・ハイキング・クライミング テレマーク&山スキー



### パーマーク

長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)  
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164  
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>